

ハンガーゼロ (日本国際飢餓対策機構) は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体 (NGO) です。1981年に誕生して以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、海外スタッフ派遣、飢餓啓発を行っています。現在は、国際飢餓対策機構連合 (Food for the Hungry International Federation) の一員として、20カ国、国内外の80のパートナーと協力し、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、「こころとからだの飢餓」に応える活動をしています。

キングダムビジネスが横浜に移転、ネットショップも公開



南スーダンとマラウイの濃厚で甘いアフリカ蜜蜂

野生のアフリカ蜜蜂の良質な蜂蜜です。アフリカ蜂蜜の代表格「サバンナアカシア」は黒糖のような濃厚な甘さが魅力。南スーダン産。人気の絵本「星の王子さま」で有

名な巨木「バオバブ」の花の蜂蜜は、食べやすく何にでも合うと人気。マラウイ産。大自然の贈り物をお楽しみください。

税込3,000円 (各120g入り)
全国送料無料

【お申込み】

ウェブでのご注文

QRコードから▶

www.kingdombusiness.jp

電話注文 / お問い合わせ:

080-9126-7701

(株)キングダムビジネス

横浜事務所 代表: 水野行生



理事会を開催

一般財団法人 日本国際飢餓対策機構の「定例理事会」が 6 月13日(金)に大阪で開催され、次年度 (今年 7 月～来年 6 月) 事業計画・予算などが審議されます。

ハンガーゼロ海外駐在員短信

●小西小百合 (ボリビア)
現地で活動が続けています。

●王楠穎 (ウクライナ)
現地で活動が続けています。



●ジェロム・カセバ (コンゴ民主)
5月17日に日本を出発、コンゴ民主共和国での活動調査、およびザンビアで開催する国際飢餓対策

機構連合の会議に出席。6月中旬に帰国予定。

なおザンビアの会議に近藤常務理事、浅野スタッフも出席します。

切手・書き損じはがきをご提供くださる皆さまへ
～大切なお知らせ～

これまで切手や書き損じはがきをご提供いただいた皆さまには、感謝のお便りをお送りしてまいりましたが、今後はご希望の方のみにお送りさせていただきます。ご希望の方は、お手数ですが、提供の際にその旨を一筆添えてくださいますようお願いいたします。

また、諸事情により**使用済み切手の回収は終了**(未使用切手は回収継続) させていただきました。

今後とも温かいご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。(大阪事務所)

イエス・キリスト エクレシア
よろこび研究会

真理はあなたを自由にします。 ヨハネ福音書8章32節
— この御言葉を中心として「よろこび」を学んでいます —

真理のことばで“よろこび”をお届けしています。

- ① 聖書のみことばをわかりやすく
- ② 日常生活に適用できるように
- ③ より実践的に

毎月新たな聖書箇所を読み、お一人お一人の状況に照らしてメッセージをしていきます。**初めての方でも大丈夫です。**
共に学び、よろこびを探究しましょう。
メッセージ: 奥田英男 【参加自由・無料・席上献金有り】

✉ Info@yorokobi-lab.com
042(553)0511 (株)オクダコーポレーション内

サポーターお申込み欄 FAX072-920-2155

ふりがな	氏名	
(TEL)		
住所	〒	
申込日	年 月 日	NL419号
☒	下記から希望されるものをお申し込みください	
☐	ハンガーゼロサポーターとして協力します。 ①毎月 () 円 (1 1,000 円) ②一時募金として 円協力します。	
☐	継続募金 (JIFH サポーター) として協力します。 毎月 () 円 (1 500 円)	
☐	チャイルドサポーター (子ども1人毎月 4,000円) の説明書 (申込書) を送ってください。	
☐	郵便自動引落し申込書を送って下さい。	
☐	その他の銀行自動引落し申込書を送って下さい。	

上の申込書をコピーして、必要事項を記入の上、FAX又は郵送にて大阪事務所までお送りください。確認書類等を送らせていただきます。お電話やウェブサイトでも申し込みできます。

ハンガーゼロサポーター 現在… **5314** 口

大阪 〒581-0032 八尾市弓削町 3-74-1
(広島/沖縄) TEL (072)920-2225 FAX (072)920-2155
東京 〒101-0062 千代田区神田駿河台2-1 OCC ビル 517 号室
(東北) TEL (03)3518-0781 FAX (03)3518-0782
愛知 〒460-0004 名古屋市中区新栄町 2-3 YWCA ビル 6F
TEL (052)265-7101 FAX (052)265-7132
USA Ainote International c/o Mr. Takehiko Fujikawa
TEL (510)568-4939 AMERICA 衆国の方は HP 又 QR からお申込下さい。クレジット決済が可能になりました。
jifh.ainote@gmail.com HP <https://ainote.org>



【本紙の送付についてのお問合せは】左記eメールアドレス、Webサイトのお問い合わせ、または大阪事務所までご連絡ください。

わたしから始める、世界が変わる

Hunger Zero News

ハンガーゼロ・ニュース

1分間に17人(内12人が子ども)
1日に2万5,000人が
1年間では約1,000万人が
飢えのために生命を失っています

2025

6

No.419



Hunger Zero News 今月号の内容

大阪マラソン・ランナーさん体験記	P.2
チャイルドサポーター活動地訪問①	P.3
チャイルドサポーター活動地訪問② ボリビア支援終了式典報告ほか	P.4-5
小西ボリビア駐在スタッフ連載	P.6
チャイルドサポーター 支援者の広場	P.7

支援地カンボジアの子どもたち

■発行者 清家弘久
■発行所 一般財団法人 日本国際飢餓対策機構
Webサイトアドレス <http://www.hungerzero.jp>
eメールアドレス general@jifh.org
フェイスブック facebook でハンガーゼロで検索



■募金方法 ※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウェブサイト
①郵便振替 00170-9-68590 一般財団法人日本国際飢餓対策機構
②他の金融機関からの自動振替③クレジット、デジタルコンビニ



●Vポイントを利用して「南スーダン・マフィ小学校給食支援」ができます。現在までに1,820,870ポイント(円)のご協力(26,595件)がありました。

飢餓に苦しむ人や子どもたちのために **RUN!**

募金集めもタイムも目標達成

きょうむれゆう
京牟礼優さん

※写真提供：京牟礼さん



雪も降る厳しい天候にも負けずに疾走中

昨年に続き2度目の大阪マラソンでチャリティーランナーとしてハンガーゼロさんのサポートをさせていただきました。

目標の、参加に必要な募金額7万円以上と昨年のタイムを上回る2時50分切りを目指して発信とトレーニングを行いました。

当日は非常に厳しい寒さの中、2時間47分55秒で自己ベストを大幅に更新。積み重ねた努力が実った瞬間はたまらなく嬉しかったです。ここまで支えてくれた家族やハンガーゼロの皆様、奈良高畑教会の皆様の支援と力強い応援、そして祈りがあったからこそ、スタートラインに立つことができ、苦しい局面を乗り越え駆け抜けることができたのだと思い、感謝の気持ちでいっぱいです。

飢餓に苦しむ人々に私ができることは少ないかもしれませんが、それでも好きなマラソンで世界が元気になれるよう、これからもひたすらに目標に向かって走り続けていきます。

募金額は大会事務局で集計中
確定後 HP でお知らせします



ユニフォームには応援コメントがびっしり



3度目も完走、応援感謝します

よしもとけいし
吉本慶史さん

2023年から3年間、ハンガーゼロのチャリティーランナーとして貴重な大阪マラソンを走らせて頂きました。毎回寄付金を託して送り出してくれた妻や家族、友人知人に心から感謝しています。きっかけは2020年に遡ります。

元々趣味でランニングをしていましたが、清家理事長、広報の鶴浦さんから「大阪マラソンのチャリティーパートナーに選ばれたら走ってもらえないか」と声をかけて頂きました。その当時個人の目標を達成し、次なる目標が定まっていないタイミングでした。ハンガーゼロが大阪マラソンのチャリティーパートナーにいつ選ばれるか決まっていなくて準備期間が定まらない状態でしたが「走るという事で人の為に自分が役にたてるならば」と決心し、トレーニングを続けていました。

そして2023年にハンガーゼロがパートナーに選出されたので、私もチャリティーランナーとして参加させて頂きました。「支援のために出るからには完走したい」(注)というプレッシャーもありました。それでも異なる天候やコンディション、アクシデントもある中、3度とも完走できたのは、神様の守りと皆様のお祈りと熱い応援のおかげだったと思っています。(注)：チャリティーランナーでのエントリーで完走は必須ではありません。

貴重な体験をさせて頂いて、少しでもお役に立てて心から感謝しています。

【大阪マラソンのチャリティーランナーに関心のある方は大阪事務所までご連絡ください】



ゴールゲートを前に歓喜のポーズ



ゴール直後に満面の喜び

備蓄をしながら社会貢献



世界にパンを届けよう



皆様から回収された救缶鳥は各地に飛んでいきました！



食料が不足している、国内外の豪雨・地震等の災害被災地や、海外の飢餓地域等へ送られました。



おいさと夢をお届けします。

株式会社パン・アキモト

パンの缶詰
since 1995

〒329-3147
栃木県那須塩原市東小屋295-4
TEL 0287-65-3351

パン・アキモト 検索



左から5番目が元支援チャイルド

ハンガーゼロが10年間にわたり地域開発の支援を続けてきた、カンボジア・スバイルー地域を3月24日から28日まで

訪問しました。スバイルー地域は世界遺産アンコールワットのあるシュムリアップ州にあり、観光客で賑わうそのすぐそばに、生活に困難を抱える人々が多く暮らしているところです。

今回は、大阪女学院高校の学生さん4名と先生方2名とともに現地を訪れました。同校ではクラスや有志で募金を集め、「サポートチャイルド」を継続的に支援してくださっています。その支援を通じて関わってきた男の子に、直接会うという特別な機会に恵



大阪女学院の支援チャイルド、ラタナさんと(写真⑥中央)

地域変革の「受け手」から「担い手」に

まれ、互いに話をしながら交流を持ちました。学生たちは心のこもったプレゼントを準備し、初めは緊張していた彼も

次第に笑顔を見せ、双方にとってかけがえのない時間となりました。

FHが支援していたチャンピア小学校を訪問した際、1人の女性教師が、「かつて私もサポートチャイルドの1人でした。地域やサポートへの恩返しの気持ちで、子どもたちに勉強を教えています」と涙ながらに話してくれた感謝の言葉が心に残っています。

様々なFHの活動を視察する中で特に印象的だったのは、FHのスタッフだけでなく、地域の人々自身が主体的に活動を紹介し、運営していたことです。「受け手」から「担い手」へと変化し、地域をより良くしようと行動する人々の姿に、確かな自立と成長を感じました。

今回の訪問を通して、1人の子どもを支援する思いが人々の変化を生むという現場に直接触れ、この取り組みに関わることができる感謝と大きな励ましをいただきました。

支援の終了後も続く変革

カンボジア現地スタッフ・ノウン・ソニーさん
元教育プロジェクト担当官／FHカンボジア



ノウン・ソニーさん(左端)

私は2014年から2024年まで、スバイルー地域における子どもに焦点を当てた地域変革プログラム(CFCT)に携わってきました。

例えば、バンミリア地域では、FHスタッフが教育局および地域リーダーと連携し、就学前教育施設の設立や教



Hope Group Volunteer for Education
活動の一つである地域の幼稚園

師の研修、スポーツ用品や教材の提供を行ってきました。また若者グループや教育ボランティアグループを立ち上げ、地域の幼稚園がすべての子どもにとって身近な学びと遊びの場になるよう努めました。

FHのプロジェクトが終了した後も、子どもたちは算数と読み書きの力を伸ばし、友だちと遊び、安心して成長しています。そしてしっかりと準備できた状態で小学校に入学できるようになってきています。このように地域では多くの改善がなされ、自立への道を自分たちの手で積極的に進められるようになりました。

ムーチャス グラシアス ハボン
Muchas Gracias Japon スペイン語

本当にありがとう日本のみなさん！

  12年にわたりリオカイネとアサワニ両地域で行われた支援活動は昨年12月に終了しました。情勢不安で延期されていた終了式典が今年3月に無事開催され、活動の成果を喜び合いました。地域にとって新たな出発となり、「本当にありがとう日本のみなさん！」という感謝の言葉が何度も聞かれました。これは、地域の子どもたち、保護者、リーダー、行政関係者、FHボリビアスタッフ一同から日本の支援者の皆様への心からの感謝の言葉です。皆様の献身的なご支援なしには、活動継続は不可能でした。
(報告：チャイルドサポーター事務局 北田京子)



FHコチャバンバ事務所スタッフと共に

リオカイネ地域

ハンガーゼロ（JIFH=日本国際飢餓対策機構）の支援地域を管轄してきたFHコチャバンバ事務所から車で約3時間。景色は一変し、美しい壮大な自然が広がります。



ハンガーゼロの支援でFHボリビアは12年前からリオカイネ地域で、教育、保健、収入向上など多岐にわたる分野において地域と連携して活動を実施してきました。そのことで、1人当たりの年間所得増加率は115%、5歳未満の子ども187人の栄養失調が33%から17%に軽減されました。60%以上の家庭で食習慣が健康的なものへと大幅に改善され、子どもの健康と発達に良い影響を与えています。学校の教師への研修は、教育指導の質の向上につながり、子どもたちの学力は20%、識字率は15%向上しました。FHスタッフは340世帯を1,700回にわたり訪問しながら、子どもと保護者を励まし続けてきました。

かんがい
灌漑システムでレモンの収穫量が増加



地域各所で、FHボリビアとJIFHのロゴが入った看板を見かけました。それは、水プロジェクトが実施された証でした。

水の問題は、子どもたちの家庭だけでなく農家にとっても特に深刻な課題でした。ハンガーゼロの支援を通して、地域全体の水プロジェクトが推進され、ほとんどの子どもたちの家に手洗い所が備わり、257の灌漑システムが導入され、105世帯の農業生産が倍増しました。支援チャイルドの保



灌漑システムで収穫された成果物が配られました

護者は、「灌漑システムや自動給水システムの導入によってレモンの栽培量が増え、収穫時期には人を雇えるようになり、地域に雇用を生み出すことができるようになった」と話してくれました。温暖な気候のリオカイネでは、地域住民はFHから柑橘類の品種改良技術も習得、実践しています。

リオカイネでの支援終了式典

フロチコ村センター校で開催された支援終了式典は、地域教会リーダーの祈りで始まり、子どもたちの司会で進行され、日本からの支援とFHボリビアへの深い感謝が述べられました。

リオカイネ地域には、広大で美しい国立公園があり、恐竜の足跡も多数発見されています。トロトロ郡役所は今後の地域発展のため、観光業に力を入れていく方針です。FHボリビアも当面は地域に関わりながら、地域リーダーたちが主体的に観光開発を進められるよう支援していきます。



リオカイネから感謝の動画が届きましたQRコードから▶



リオカイネの支援終了式典

アサワニ地域

アサワニ地域には今回残念ながら訪問ができなかったが、現地入りできたFHの地域スタッフによって支援終了式典は無事に執り行われました。タパカリ郡の役所関係者及び学校関係者とは、最後の夜にコチャバンバ市内で会う機会があり、これまでのFHボリビアの働きとハンガーゼロの支援に対する感謝が述べられ、お互いの協力関係に感謝の挨拶を交わしました。



アサワニ地域で協力してきた学校関係者から感謝の挨拶がなされました

サポーターの存在の大きさを実感

最後に、前支援地域チャヤセンターの元支援チャイルドたちから話を聞く機会がありましたのでご紹介します。彼らの話を聞き、改めて子どもたちにとってサポーターの存在と支援がいかに大きかったかを実感しました。

「私が支援チャイルドで小さかった時に、必要な学用品を支援してくれました。FHのスタッフがいつも、いつも励ましてくれて、私の親にも話をして、私が勉強を続けられるようにしてくれました。看護師となった今、他の人を助けることができるようになりました。私たちに将来への扉を開いてくれたこと、支援チャイルドになれたことを私は誇りに思います。サポーターさんの手紙はとても大切にしています」



アサワニの支援終了式典

「ぼくは今、地域で土木の仕事をしています。『子どもの日』のお祝いの時に、ミルクチョコレートや甘いパンでお祝いしたことを覚えています。その時代を懐かしく思っています。皆さんのサポートに励まされて、高校を卒業してから町で専門知識を身に付けるために勉強を続けることができました」

励ましを与えてくれた方々の存在への感謝、また1杯のミルクチョコレートが貧しかった少年の心を今も温めているという話を聞き、リオカイネとアサワニ地域の子どもたちもこのように育ってほしいと、心から期待しています。献身的に地域に仕えているFHボリビアの働き、地域の方々の努力が実を結び成果を生み出したこと、そして何より、子どもたちへ温かい愛を示してくださったサポーターの皆様に、心より感謝申し上げます。 ※次頁に小西駐在員の報告記事



お祝いのダンスを披露するアサワニの支援チャイルドたち

ハンガーゼロは今後、プロジェクト支援の形でFHボリビアとの協力を継続していきます。

支援地域の
子どもを支援

チャイルドサポーター

月々4,000円

支援地域の特定の子どもとつながり、地域で行われる活動をご支援頂きます。サポートチャイルドと手紙による交流が可能です。

2つの支援の方法

ChildSupporter
チャイルドサポーター



▶お申込み◀

支援地域の
環境を改善

フィールドサポーター

1,000円から

月々または自由なタイミングで支援できます。サポートチャイルドとの交流はありませんが、現地での活動の様子レポートをお送りします。

ラテンアメリカの人々とともに

2024年末12年間の支援を終了したアサワニとリオカイネ両地域において、今年2025年3月、JIFH(注)から北田京子スタッフと私の所属教会から藤崎秀雄牧師を迎えて支援終了式典：セレブレーションが実施されました。(前支援地域・チャヤセンターの12年を含め計24年の活動のうち私が関わったのは18年間)

豪雨で予定変更も無事に

今年はボリビア各地で例年を上回る規模の豪雨災害が発生し、リオカイネでの行事には参加できませんでしたが、高地アサワニへは豪雨によるがけ崩れのために道路が封鎖され、日本からの訪問者を含め私たちは残念ながら出席することができませんでした。

しかし、リオカイネでの行事が終了した午後からFH(注)の地域スタッフ7人が、雨が降り続く中、バイクで野宿をしながら2日ばかりで現地入りすることができました。当日はエドワルドスタッフがまとめ役となり、彼らが私たちの代表を立派に務め、北田スタッフの祝辞も伝えて下さり、支援終了式典が無事に執り行われたことは本当に感謝でした。

両地域とも支援チャイルドとその家族、学校関係者、行政関係者、地域リーダーたちが集まり、日本の皆様からのご支援とFHボリビアに対して深い感謝が述べられました。子どもたちは民族舞踊を披露し、人々はその土

連載 (25)



変わるもの
と
変わらないもの



ボリビア多民族国
駐在 小西小百合



元支援チャイルドたちとの夕食会(中央に藤崎牧師と北田スタッフ㊦)

地の収穫物や民族の帽子などをプレゼントして下さり、これまでの活動を支えて下さった神様に共に感謝の祈りを捧げました。

日本の支援者に感謝

最終日に開催された、前支援地域のチャヤセンターの「元支援チャイルドたちとの夕食会」では、現在FHボリビアのスタッフ3人や地域政府の職員として地域に仕えている青年たちも招待され、彼らから「日本の皆さんの愛とご支援によって今の私たちがあります!」と、誇らしげな報告と心からの感謝を聞き、「日本の支援者の皆様のお祈りと犠牲、そしてFHスタッフの献身的な働きがあったからこそ、このように今、これまでの働きの豊かな実を見ることができた」ことに、感激で胸が一杯になりました。

長年にわたり子どもたちを支援して下さった皆様、エドワルドスタッフの継続雇用のために支援して下さった皆様お一人お一人に、そして主なる神様に心から感謝しています。

これからもボリビアの人々のためにお祈りとご支援を頂けたら幸いです。

小西スタッフは「ハンガーゼロプロジェクト・コーディネーター」と役割を変えて、現在もFHボリビアで活動を続けています。

世界の現実を英語教室の子どもたちに知ってもらうために、応援をしているルワンダの子に子どもたち全員で英語でお手紙を書いています



川口亮子さん(旧姓小島)

チャイルドサポーター 川口亮子さん&ご家族

私は2007年から2012年まで、ハンガーゼロの愛知事務所でスタッフとして働いていました。その後宮城県に移り住み、現在は夫婦で英語教室を運営しています。日々多くの子どもたちと接する中で、「この子たちにも世界の飢餓の現状を知って欲しい!」という思いが湧き、2015年より教室全体でチャイルドサポーターをさせて頂いています。

以前にサポートしていた子はウガンダのレイチェルちゃんという女の子でした。レイチェルちゃんが成長した写真が送られてくる度に生徒たちはみんな感激し、また毎回のように「大好きな日本のお友だちへ」と手紙に書いてくれる優しいレイチェルちゃんの事が、みんな大好きになりました!

そんなレイチェルちゃんも3年前に無事に学校を卒業し、現在はルワンダのホジアネちゃんという女の子をサポートしています。1年に1度生徒全員に(2歳～高校生まで)ホジアネちゃんに頑張ってる英語でお手紙を書いてもらっています。しかし、そもそもルワンダがどのような



国なのかみんな全く知らない状態でしたので、今回ハンガーゼロスタッフのジェロムさんをお招きし、生徒たちとその保護者の方にルワンダについて話して頂きました。

私たちにできる継続支援を

ジェロムさんは子どもたちにも分かるように、簡単な言葉を選んでルワンダの歴史を話して下さい、私たちがしている小さなサポートがいかに大きな助けになっているかを話して下さいました。また、教育が将来を切り拓いていく大きな力になる事も熱く話して下さい、生徒たちだけでなく保護者の方々にとっても大変励まされる時間となりました。

私たち夫婦は東日本大震災の時に支援活動に加えて頂きました。その時に「短期の支援ではなくて、いつかこの地で長期の支援をさせて頂きたい」という思いが与えられました。その後宮城県に移り住み、私たちにできる長期支援を始めました。私たちが考えた長期支援、それは「子どもたちへの教育」でした。子どもたちに良い教育の機会を与える事で、子どもたちに自信がつき、いつの日かこの町は必ず変わっていくという、ハンガーゼロで学ばせて頂いた揺るぎない確信があったからです。今回ジェロムさんに教育支援の重要性を語って頂いた事は、生徒や保護者の方だけでなく、私たち夫婦にとっても間違いなく大きな意味のある時間でした。

保護者の方々の中には14年前の東日本大震災で被災された方も多くいらっしゃいます。明日生きていく事さえままならない辛さをご存知の方々が、他者を思いやり支援をして下さっている事の大きな意味を感じて、改めて感謝をしています。今後も継続してチャイルドサポーターとして活動させて頂きたいと思っています。